有田焼を「風景つくる家具」に、色鮮やかな空間装置として再構築

●最優秀賞

金照堂（佐賀県有田町）　「ARITA―SCAPE by ARITILE―Emerging Porcelain Landscape―」





400年の歴史を持つ有田焼を、風景をつくる空間装置・家具として再構築した。有田焼の耐久性や耐火性、防水性の高さに加え、光を柔らかく反射する質感に着目。家具としての機能性と、光や影と呼応する彫刻的存在感を同時に成立させた（撮影／志摩大輔、画像提供／落合守征デザインプロジェクト）

多くのインテリア関連団体が参加するIDMが主催するアワード「IDM AWARD 2026」の受賞作品が発表された。

インテリア関連28団体が連携し、インテリア界の活性化・発展を目指して2017年に発足したIDM（Interior Design Meeting）。その取り組みの一環として、店舗総合見本市「JAPAN SHOP 2026」（26年3月3～6日開催）の特別展示「NIPPONプレミアムデザイン」に参加。ものづくり関連の中小企業など21社の出展作品の中から、最優秀賞1作品をはじめ、合計12作品を表彰した。



●日経デザイン賞、優秀賞

加地織物（京都市）
「織物の可能性をスケールで表現」

伝統的な宗教にまつわる織物を150年以上織ってきたメーカーが、自然界の恵みである「雲・雨・水」を大胆に表現。織り方を変化させ、表現に幅と奥行きを持たせたという　（画像提供／IDM）

●優秀賞

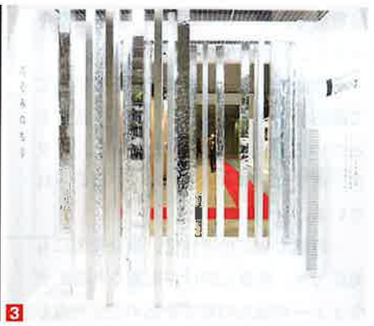
電産（東京・杉並）
「『基板要素』をインテリア空間にインストールする試み」

加栄レース（群馬県桐生市）
「『光を編む』TRICOLUM」

富士工業販売（神奈川県相模原市）
「あるみのもり―Demoldを“からだで感じる”森―」







1 様々な産業機器に用いられているわずか数十平方センチメートルの基板は、12ものレイヤーで構成されている。その極小の都市空間のような回路図をインテリア空間として表現　2「光を編む」をコンセプトに開発したラメニット「TRICOLUM（トリコリュム）」。艶やかで日本らしい控えめな風合いを持ち、不思議な光を放つ　3金属加工のスペシャリストチームDemold（ディモールド）が、五感で素材を体感できる“森”を制作　（画像提供／IDM）

審査委員長の飯島直樹氏（IDM代表幹事、飯島直樹デザイン室代表）は語った。

有田焼を空間装置に

最優秀賞に選ばれたのは、金照堂（佐賀県有田町）の「ARITA-SCAPE by ARITILE」。

400年の歴史を持つ有田焼を、風景をつくる空間装置・家具として再構築したものだ。有田焼の耐久性や耐火性、防水性の高さに加え、光を柔らかく反射する質感に着目。家具としての機能性と、光や影と呼応する彫刻的存在感を同時に成立させた。

日経デザイン賞は、加地織物（京都市）の「織物の可能性をスケールで表現」。伝統的な宗教にまつわる織物を150年以上織ってきたメーカーが、自然界の恵みである「雲・雨・水」を大胆に表現。アイテムごとに織り方を変化させ、表現に幅と奥行きを持たせたという。

「2026年のIDM AWARDは素材や空間の要素をインテリアデザインにインストールする試みが一段と進み、深みを増した印象。中でも最優秀賞は、有田焼磁器の立体演出に挑んだ、秀逸かつ官能的な展示だった。400年の歴史を持つ有田焼の新たな可能性を示唆したものといえるだろう」と、

山下奉仁

日経デザイン 2026年5月24日発行（毎月24日発行）第468号

NIKKEI DESIGN



特集

事業承継×リブランディング

6
2026